

教職員自己評価 概要・結果分析及び改善案

	概要	結果分析	改善案
全体	実施した32項目中25項目においてA評価であった。 観点別では「確かな学力」と「業務改善」がB評価であった。	観点別の「指導体制」「校内研修」「開かれた学校」「豊かな心」については、3.5以上の高評価であった。 「確かな学力」「業務改善」については、臨時休業やコロナウィルス感染防止対策等の影響があったと思われる。	
主体的学び	「学び方を身に付けさせることができている。…B3.2	臨時休業による学習の取り返しやコロナウィルス感染防止対策により、話し合い活動の機会が従来のようにできなかったことが考えられる。	○ホワイトボードを活用するなど、現在の状況でできる形をや身に付けさせたい力を明確にする。
活用型学力	「家庭学習の手引き」や「話す力・書く力チェックカード」を活用して、学校・家庭が一体となって言語活動を充実させ、読書・俳句作りや全校的な体験活動を通して、思考力・判断力・表現力を育み活用型学力を向上させている。…B3.2	保護者アンケート結果 肯定的評価 ○「教育活動」は全部の項目で97%以上が肯定的評価 ○「家庭学習の手引き」等で家庭学習を推進…99% ○家庭での学習習慣が身につけている…83% 児童のアンケート結果 肯定的評価 ○家での学習が毎日できている…91% 学校の取組は周知されていると考えるが、さらに家庭学習を習慣化させる取組が必要。	○家庭学習については、子どもと保護者の意識にずれがあるので、学級懇談や学級通信等で啓発を継続する。(目安の時間や内容、自主学習の推進等)
情報教育・外国語教育	本校は、教職員のICT活用能力や外国語指導力を向上させ、児童に主体的に学習に取り組む態度やコミュニケーション能力の育成を図っている。…B3.2	情報教育支援員来校日には、どの学年もタブレットを使った活動を積極的に取り入れることができた。 外国語や外国語活動の時間はALTとコミュニケーションを図りながら楽しんで取り組んでいるが、児童がさらに主体的に活動できるよう工夫が必要。 外部講師を招き、充実した研修ができた。	○GIGAスクール構想による一人一台端末の効果的な利用方法について教員の研修を深めていく。また、教員自身がICT機器を積極的に使っていく。 ○外国語について外部講師を招いての研修を継続して行い、誰もが外国語の指導ができるようにしなければならない。

<p>自尊感情</p>	<p>本校は、「自分も大事・みんなも大事」を合い言葉に自尊感情を高め、教育相談体制を確立した地域ぐるみの人権教育を推進し、差別を許さない生活の徹底を図っている。・・・A3. 8</p>	<p>保護者アンケート結果 肯定的評価 ○思いやりの心が育っている・・・100% ○自分にはよいところがあると思っている・・・96% 児童アンケート結果 肯定的評価 ○自分にはよいところがあると思う・・・76% ○友達と仲よくできている・・・98% さらに子どもの自尊感情を育む必要あり。</p>	<p>○人権学習で学んだことを、実生活の中で生かせるように、声かけや具体的支援を継続していく。 ○学校行事や集会等の運営を子ども主体でできるようサポートし、自信をもたせることにより、主体性や自主性を育てる。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>全職員あげて児童理解に努め、一人一人の適正・心情に寄り添い、児童の社会的自立を促進している。・・・A3. 6</p>	<p>保護者アンケート 肯定的評価 ○一人一人の子どもが大切にされ、認められる学校になっている。・・・98% 児童アンケート結果 肯定的評価 ○先生は、自分ががんばったことをほめてくれる。・・・90% 昨年比7%↓ あいさつや掃除の仕方は昨年よりよくなってきている。 業間や昼休みチャイムの合図ですぐに行動に移すことができていない。5分休みの後、時間どおりに始められないことがある。低学年は着替え等が5分ではできない。 「今どうすべきか」自分で判断して行動できる児童を育てたい。</p>	<p>○教師がルールを敷くのではなく、週目標を決めるときに挨拶・廊下の通り方・清掃・給食・学習等、学校生活の柱となるものを提案し、それを守ることを通して徹底していく。 ○年度当初は学年毎で掃除の仕方を徹底して指導する。 ○日課表(休み時間5分)について再検討する。教師が授業終了の時刻を守り、休み時間を確保する。</p>
<p>生活習慣</p>	<p>「生活がんばりカード」を活用し、早寝・早起き・朝ご飯とあいさつ習慣の定着を中心に、食育と基本的な生活習慣の確立を図っている。・・・A3. 3 <u>0.1p↑</u></p>	<p>保護者アンケート結果 肯定的評価 「子どもの育ち」については全て83%以上 ○「生活がんばりカード」を活用し規則正しい生活を指導・・・97%(本年度重点目標) ○早寝早起きなど規則正しい生活ができていると答えた児童・・・76% 昨年比6%↓ ○子どもたちは早寝早起き朝ご飯の習慣が身についていると答えた保護者・・・83% ○校内での挨拶は、よくできている。「こんにちは」等の朝以外の挨拶もできるようになった。</p>	<p>○地域の方への挨拶など、校外に出た時にも自分から大きな声で、できるように根気強く指導する。 ○挨拶をするのが当たり前になるまで、教師から継続して声かけをする。 ○「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さについて養護教諭から朝会時に話をしたり、学活で担任から話したりする頻度を増やす。</p>

体力向上	縦割り班活動を中心とした子供同士のつながりを深め、自発的に動き・遊ぶ活動を通して、自分に合った体力の向上を図っている。…A3. 5 0.2p ↑	保護者アンケート結果 肯定的評価 ○学校は、健康な体力作りの充実を図っている。…97% 3% ↑ 児童アンケート結果 肯定的評価 ○進んで運動している。…88% 3% ↓	○休み時間の外遊びを継続して奨励する。 ○時間が許す限り教員も一緒に遊ぶ。
学校行事	「共通実践」本校は、学校行事は精選され無理なく実施できるように計画されている。…A 3. 4 0.2p ↑	コロナウィルス感染防止対策を講じながら、学校行事の内容を見直して可能な限り実施した。この点で、保護者の理解と協力が得られ、高評価となっている。児童も意欲的に参加した。 PTAや地域関連の行事は、中止や縮小を余儀なくされた。 保護者アンケート 肯定的評価 ○子どもは運動会・遠足・学習発表会などの行事に積極的に参加している。…100% 児童アンケート結果 肯定的評価 ○運動会・遠足などの行事には進んで参加している。…100%	○今後も児童の安全安心を第一に考え、学校行事が無理なく実施できるよう内容等を工夫改善していく。
組織・運営	「組織・運営」本校は、職員一人ひとりの意見が教育活動や学校運営に生かされている。…A3. 5	○児童や生徒指導等についての共通理解をその都度とるようにした。 ○学校行事後に全職員にアンケートをとるなどして、振り返りの場をとった。	○共通理解→同一步調→反省・見直し→実践を継続していく。
確かな学力	「基礎基本」本校は、基礎・基本としての学力を身につけることができている。…B 3. 2 0.1p ↓ 「主体的学び」本校は学び方を身につけさせることができている。…B3. 2 0.1p ↓	保護者アンケート結果 肯定的評価 ○学校での学習を理解している…91% 2% ↓ 児童アンケート結果 肯定的評価 ○授業は分かりやすい…93% 4% ↓ ○自分から考えや意見をしっかり言える…73% 4% ↑ ○友達の見解をしっかりと聞いている…89% 6% ↓ ○分からないことがある時質問…82% 3% ↓ 学習内容の理解度には個人差があり、それに対応していくことが課題である。 臨時休業による学習の取り返しやコロナウィルス感染防止対策として、ペア学習や話し合い活動ができにくい状況にあったことの影響も考えられる。	○コロナウィルス感染防止対策に配慮しつつ、ホワイトボードなどを活用して話し合い活動の機会を多くしていく。 ○「身に付けさせたい力」を明確にする。 ○まず学習規律を徹底する。

<p>道徳教育</p>	<p>「道徳」本校は、道徳の時間の学習の成果が日常生活につながっている。・・・A3.3 「地域連携」本校は、家庭や地域と連携して指導を進めることができている。・・・A3.7 0.2p ↑</p>	<p>保護者アンケート結果 肯定的評価 ○生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている。・・・98% 2% ↑ 児童アンケート結果 肯定的評価 ○生き物の命を大切に・・・94% 2% ↓ ○安全に気をつけて生活・・・88% 10% ↓ 児童の結果からは、安全な廊下の通り方や休み時間の過ごし方などについて反省し、意識が高まっていることがうかがえる。</p>	<p>○学習の成果が日常につながるような指導に努める。 ○成果を評価できるような手立てを発達段階に応じて考える。</p>
<p>業務改善</p>	<p>自分は、業務内容の軽重を考えながら、効率よく職務を遂行できている。・・・B2.8 0.1p ↑ 自分は、ワークライフバランス(勤務時間)を意識して勤務することができている。・・・B3.2 0.1p ↑</p>	<p>ノー残業デイや「今月の目標」(超過勤務時間についての)提示が有効だった。 数値には表れてないが、教職員の記述からは「自分の仕事の効率化を考えるようになった」「管理職の呼びかけで勤務時間を意識するようになった」「休日出勤が昨年度に比べてかなり少なくなった」等の成果がみられた。</p>	<p>○一人一人の勤務状況を把握するとともに、管理職から継続してワークライフバランスを意識した勤務について声をかけていく。</p>

【学校関係者評価】

日時：令和3年3月5日（金）18：00～19：00

場所：西麻植小学校 校長室

出席者： 学校評議員 4人 小学校教員 2人

*各委員からの提言・助言

- (1) 教職員自己評価：職員一人ひとりの意見が教育活動や学校運営にいかされている（A評価）について
管理職をほめたい。大変よいことだ。
- (2) 児童アンケート：自分からあいさつができています（A評価）について
校外では大きな声でできてないということだが、アンケートの設問が一般的に聞いているからではないか。状況をわけて聞いてみるのもいいのでは。→設問は前年と比較するため、できるだけ変えていない。
- (3) 教職員自己評価：本校は、教職員のICT活用能力や外国語指導力を向上させ、児童に主体的に学習に取り組む態度やコミュニケーション能力の育成を図っている（B評価）について
GIGAスクール構想が国から出ているが、インターネット環境がない家庭はどれくらいあるか→春に実施したアンケートによるもので、1割弱くらい。子どもが自由に使える端末があるかどうかになると、少なくなると思われる。学校現場に入ってくるのは、4月中旬くらいになる。保護者との契約などがこれからで、子どもが家庭に持ち帰って云々などは、まだ先になりそう。コロナウイルスなどの関係で、構想が3年ぐくらい前倒しになったので、いろいろな準備が間に合っていない状況にある。
- (4) その他
 - ・ 校則について
以前本校の制服を自由服にした。時代に応じた校則の見直しが必要では→今年度上履きのゴムの色を男子は青、女子は赤から、全員青色とすることにした。男女の区別は必要ない、青は子どもが好む色である等の理由から。
そうして下さってありがたい。LGBT関係の指導にもつながる。
 - ・ 外国籍児童について
来年度のインドネシア国籍の児童が1名入学してくる。今まで在籍していたアフガニスタン国籍の兄弟同様に本校の生活に馴染んでもらいたいと思っている。